
幽霊屋さん～貴方の恨みを晴らしましょう～

晴香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幽霊屋さん〜貴方の恨みを晴らしましょう〜

【Nコード】

N9444A

【作者名】

晴香

【あらすじ】

幽霊屋さん。ただ今噂の悪霊をくれる店。貴方が復讐を望むなら、悪霊一つ差し上げます。大切なものと交換で：

第一の依頼《幽霊屋さん》

幽霊屋さん…それは自分の大切なものと引き替えに、悪霊をつくれる店。

その悪霊は憎き相手を殺し、成仏する。

一度しか使えないのだ。

そして今日も、一人の少年が恨みを晴らそうと、その幽霊屋に依頼をしようとしていた。

「ふうー…頼む…出てきてくれよ…」

薄暗い部屋のベッドに仰向けに寝転がり、携帯の画面をじっと見る。

“ピ、ポパ…”

666444。

それが幽霊屋と繋がる道を作る番号。

この番号に掛けると…幽霊屋に繋がると言われている。

“トゥルルルル、トゥルルルル…”

規則的に聞こえる音…

同じ音が耳の中に鳴り響く。

その音はその後、30分間も鳴り続けた。

「(やっぱ…噂にすぎなかったのかな…)」

少年は諦めようと、携帯のボタンを押そうとした。

すると…

“ ♪ ～ ♪ ～ ”

「!?!」

聞き覚えのない不思議な音楽が携帯から聞こえてきた。

少年は直ぐ様、携帯に耳を押しつける。

“ ♪ ～ ♪ ～ … ブツツ ”

“ ツー ツー ツー ”

突然電話が切れた。

「な…」

啞然と携帯を見つめる。

一体、何だったんだ？

“ ガバツ ”

携帯を持ったまま少年は、ベッドから起き上がる。

「こんばんわ。」

「え…」

後ろから声が掛かった。

「うわぁ!!」

大きな驚きの声を上げ、体を声のした方から遠ざけるように、飛び退く少年。

声の主はそんな少年を面白そうに、クスクスと喉で笑う。

「だ、誰だ!! 何処から入ってきた!!」

「何言っているんだ。呼んだのはアンタだろう?」

ゆっくり少年に近づいてくる。

その姿は月明かりにより、徐々に見えてくる…

「…わっ…」

現れた顔は、綺麗に整っており、鼻は高く目は澄んだ青で、まさに美男子と言うに相応しかった。

「さて、俺を呼んだからには、何か恨みがあるんだろ?」

その言葉に少年は、ハッとした。

そうだ。自分は恨みを晴らすために、彼を呼び出した…つまり彼は…

幽霊屋

「さあ、なんでも申し付けて下さいな。
旦那。」

続く

第二の依頼《代償》

「恨み相手は誰なんだい？」

掌に無数の光を出現させ、その光をクルクルと指先で転がす。

「う、らみ…」少年は、微かに震える膝を落ち着かせ、ゆっくりと立ち上がる。

「俺が殺したいのは…叔母の高見雪乃…なんだ。」

「叔母さんねえ…理由は？」

光を数個に減らして、少年に目を向ける。

「叔母は、俺の父さんを殺したんだ。しかも遺産を全て自分の物にするために、父さんを脅し、遺書を書かせ、それから薬を飲ませて…それを見た俺は警察に言った。だが、16歳の俺の話なんかは、誰も信じちゃくれねエ。だから…アンタを呼んだ。復讐するために。」

少年の目に迷いはなかった。

「ふうん。じゃ、次は名前教えろよ。俺は、ステイル。」

「俺は、高見裕二。」

「高見裕二…ね。」

スティルは彼の名前を手首に書く。
すると掌の数個の光がその名前を見るように手首に集まっていく。

「どうだ？恨みの内容、名前、顔つき…組んでやるって奴いるか？」
光に話し掛けるスティル。

すると、一つの光が、フワリと高く浮き、輪郭が浮かび上がり、全身がゆっくりと現れた。

しかしその人物が、人ではないのは当たり前で…顔の半分がなく、全身はボロボロで所々深い傷を負っていた。

悪霊…彼らは世間ではそう呼ばれる者だ。

「^{デング}纏颯か。」

纏颯は操作タイプの悪霊。

操作タイプは道具から、生き物まで全てを操る事が出来る能力を持つ。

『よお、スティル。と、契約人の兄ちゃん。』

纏颯はニヤリと口端を吊り上げて、不気味に笑う。

裕二は全身に嫌な汗が吹き出るのを感じた。

その様子を悟ったのか、纏颯は更に近付き楽しそうにケタケタ笑い裕二をその黒く濁った目で見つめる。

『いい顔してんじゃねえかア：組んでやってもいいぜえ。』

纏颯の言葉を聞くなり、スティルは、青白い紙を取出し、その紙にサラサラと何かを書いていく。

「裕二、お前にそのスティルをくれてやる。そいつが居れば復讐は出来るぜ。」

「本当か!？」

裕二は目を輝かせる。

「ああ。だが、タダではやれねエ。」

「!」

スティルは先程の紙を広げて裕二に見せる。

そこには、

―依頼人名―高見裕二。

―ターゲット―高見雪乃。―担当霊―纏颯。

と、最後に…

―代償―

と言う欄があった。

「この…代償っていうのは？」

「…あんたの一番大事なものさ。復讐を果たしてやるかわりに、大事なものを代償として頂く…それが俺たちのやり方だ。」

「な…」

そう。

それなりの代償がなけりゃ、お前の復讐は果たされない。

さあ…どうする？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9444a/>

幽霊屋さん～貴方の恨みを晴らしましょう～

2010年11月18日14時30分発行